

春日市 男女共同参画に関する市民意識調査 【概要版】

春日市 2020年3月

【調査の目的】春日市における男女平等に関する意識と実態を把握し、今後の男女共同参画に関する施策検討の基礎資料を得ることを目的として実施しました。

【調査の性格】(1) 調査地域 春日市内全域
(2) 調査対象者 満18歳以上の男女2,000人
(3) 有効回収数 626サンプル(有効回収率31.3%)
(4) 調査期間 令和元年8月

※数表、図表に示すNは、比率算出上の基数(回答者数)である。数表で、分析項目によっては対象者が限定されるため、全体の回答者数と合わないことがあります。

※文中の数字は、百分比の小数点以下第2位を四捨五入しているため、回答比率の合計は必ずしも100%とはなりません。

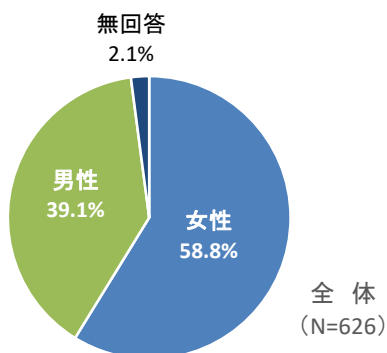
※数表中の「-」は、該当する選択肢の回答がないことを示しています。

※今回の調査は、次の調査結果と比較分析を行っています。

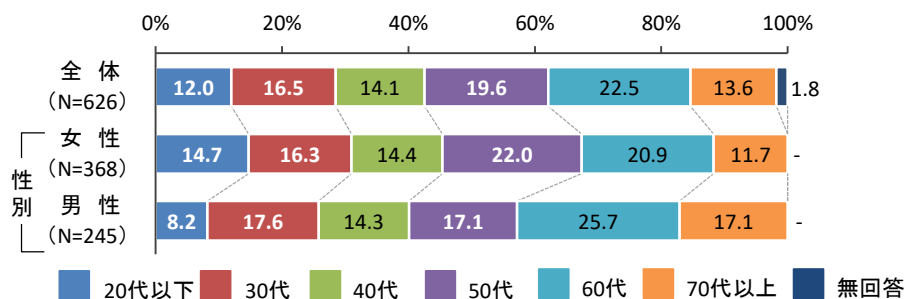
春日市 「男女共同参画社会に関する市民意識調査」平成26年8月実施

回答者の属性

●性別



●年齢



回答者の性別は「男性」が39.1%、「女性」が58.8%と女性の回答が2割ほど多く、年齢は、「60代」(22.5%)、「50代」(19.6%)、「30代」(16.5%)の順で多くなっています。

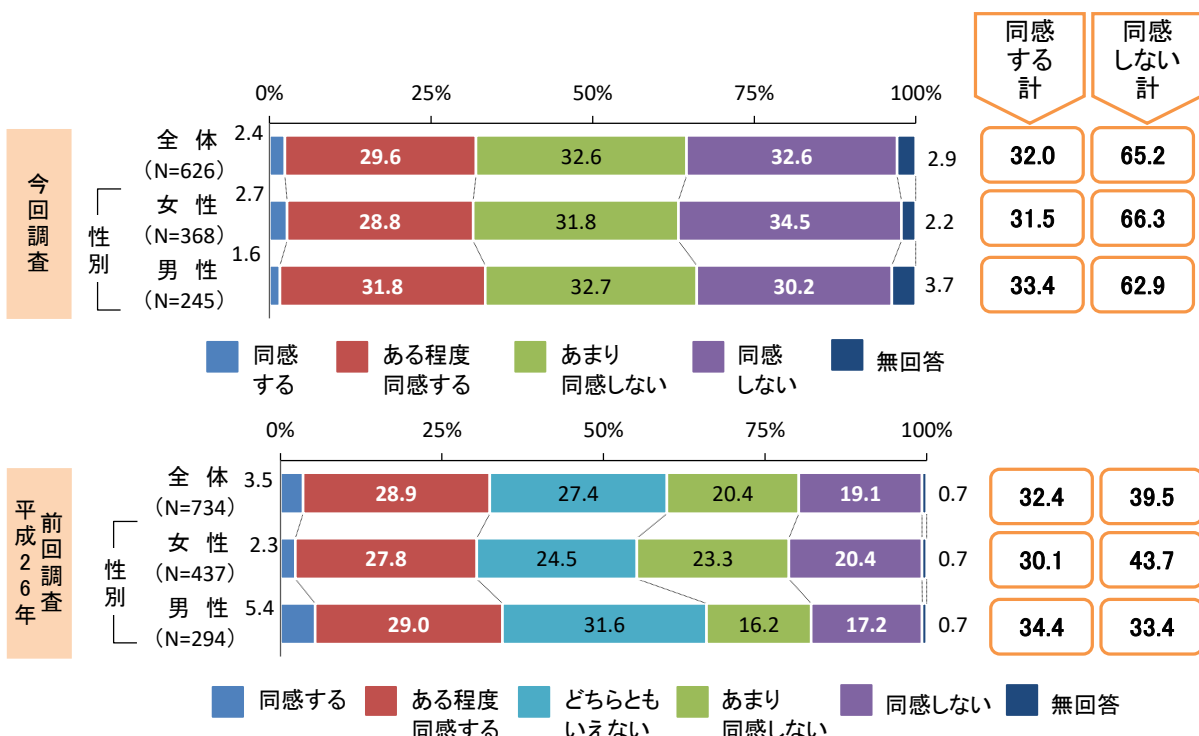
第1章 男女平等に関する意識について

固定的性別役割分担意識

問 「男は仕事、女は家庭」という考え方があります。あなたは、この考え方にどの程度同感しますか。(〇は1つだけ)

「男は仕事、女は家庭」という考え方、いわゆる固定的性別役割分担意識に対して6割強が『同感しない』（「同感しない」+「どちらかといえば同感しない」）と回答しており、固定的・因習的な考え方にとらわれない人の方が多くなっています。

しかし、年齢が高い層では『同感する』人が4割前後と少なくはなく、今後、男女が平等・公平な意識をさらに浸透させていくためには、世代間の違いを解消していく必要があります。

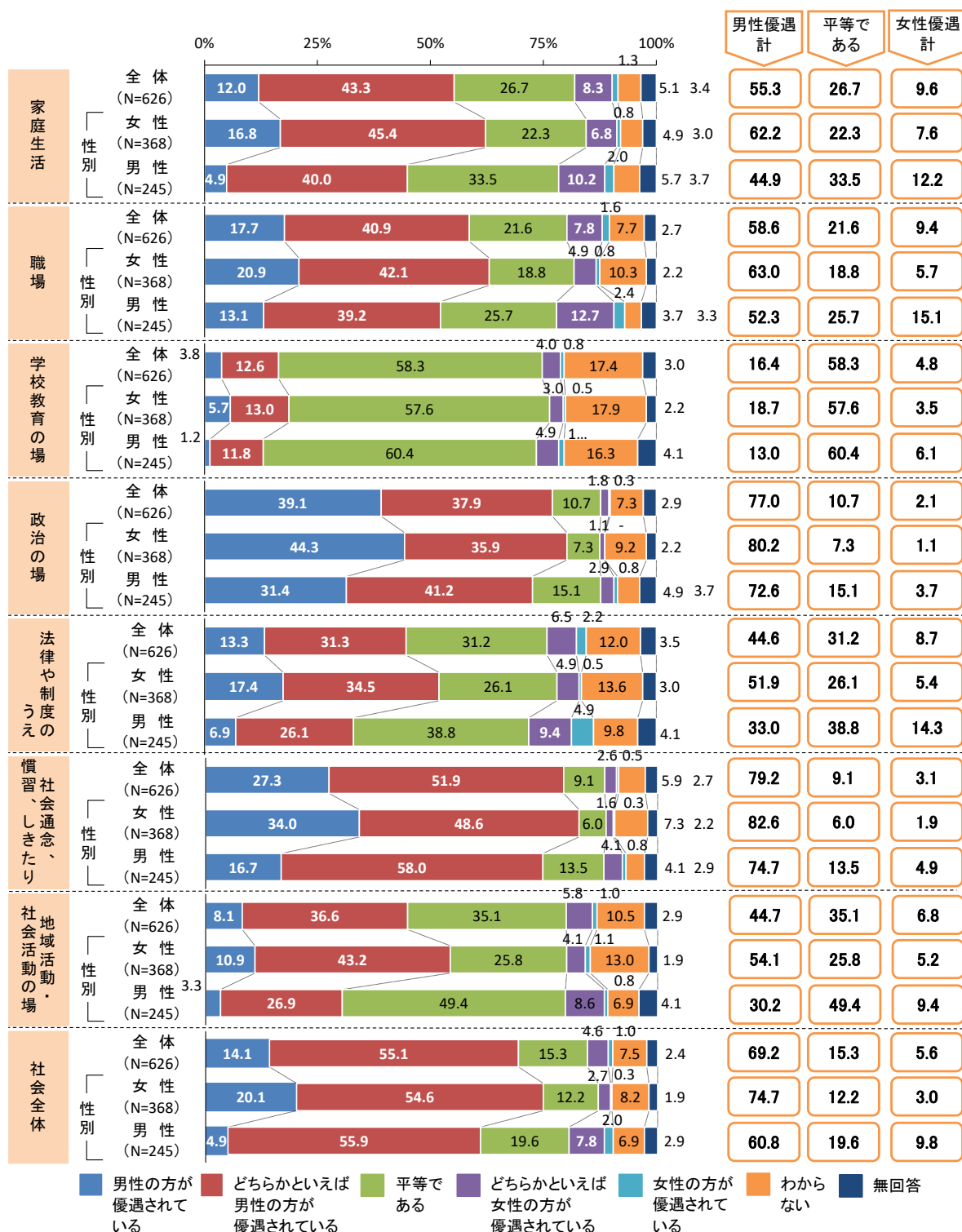


		標本数	同意する (%)	ある程度同意する (%)	あまり同意しない (%)	同感しない (%)	無回答 (%)	同意する計 (%)	同感しない計 (%)
全体		626	2.4	29.6	32.6	32.6	2.9	32.0	65.2
年齢別	女性:20代以下	54	1.9	16.7	35.2	44.4	1.9	18.6	79.6
	女性:30代	60	5.0	28.3	33.3	31.7	1.7	33.3	65.0
	女性:40代	53	-	30.2	32.1	37.7	-	30.2	69.8
	女性:50代	81	1.2	29.6	25.9	40.7	2.5	30.8	66.6
	女性:60代	77	2.6	31.2	39.0	22.1	5.2	33.8	61.1
	女性:70代以上	43	7.0	37.2	23.3	32.6	-	44.2	55.9
	男性:20代以下	20	-	35.0	35.0	25.0	5.0	35.0	60.0
	男性:30代	43	-	25.6	32.6	39.5	2.3	25.6	72.1
	男性:40代	35	2.9	40.0	28.6	28.6	-	42.9	57.2
	男性:50代	42	2.4	28.6	28.6	35.7	4.8	31.0	64.3
	男性:60代	63	3.2	28.6	36.5	27.0	4.8	31.8	63.5
男性:70代以上	42	-	38.1	33.3	23.8	4.8	38.1	57.1	
無回答		13	7.7	7.7	53.8	23.1	7.7	15.4	76.9

男女の地位の平等感

問 次にあげるような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。
あなたの気持ちに最も近いものを選んでください。(○はそれぞれ1つだけ)

「学校教育の場」など「平等である」と感じている人が比較的多い分野もありますが、「社会全体」では約7割の人が『男性優遇』(「男性の方が優遇されている」+どちらかといえば男性の方が優遇されている))と感じているように、全体として『男性優遇』の状況にあるといえます。特に、「社会通念・慣習・しきたりなど」や「政治の場」、「職場」、「家庭生活」では『男性優遇』は5割以上となっています。また、すべての分野で女性よりも男性の方が「平等である」の割合が高く、性別で認識の違いがみられます。

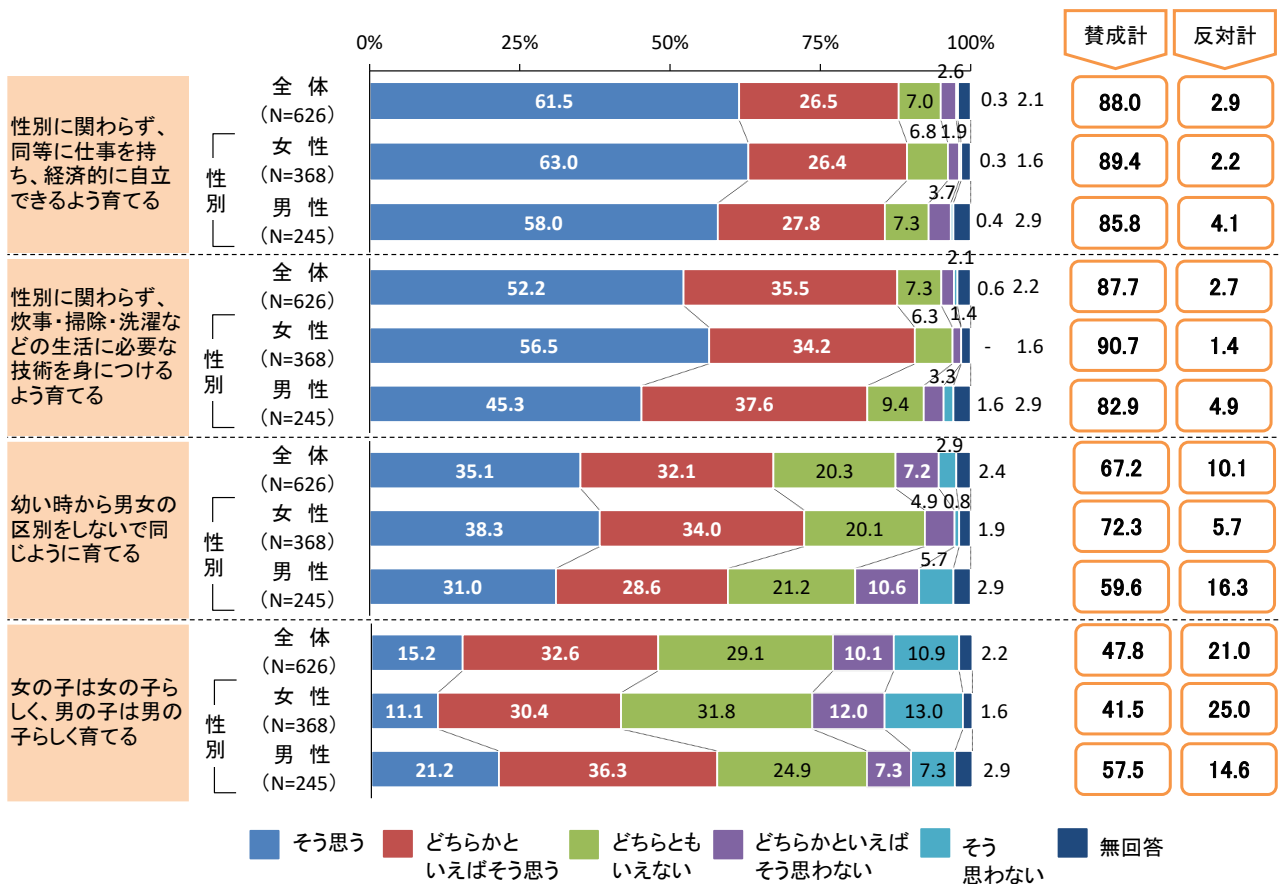


第2章 子どもの育て方・教育について

子どもの育て方

問 あなたは、子どもの育て方についてどのような考え方をお持ちですか。
(〇はそれぞれ1つだけ)

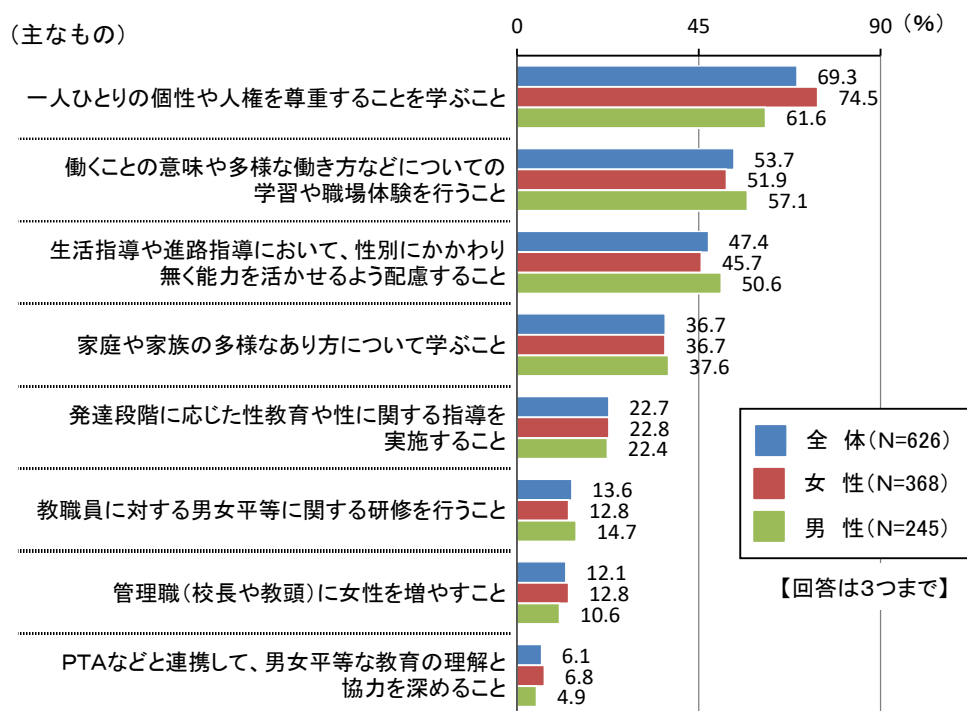
「性別に関わらず、同等に仕事を持ち、経済的に自立できるよう育てる」と「性別に関わらず、炊事・掃除・洗濯などの生活に必要な技術を身につけるよう育てる」はともに9割弱の人が『賛成』しており、男女ともに経済的と生活的、両面での自立を促すべきと考えている人が多くなっています。しかし、「幼い時から男女の区別をしないで同じように育てる」という考え方については、『賛成』が7割弱にとどまり、さらに「女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てる」という考え方に約5割が『賛成』しています。育児や教育において女らしさ・男らしさを意識するべきという考え方も存在しています。



学校教育の場で力を入れること

問 これからの社会で男女共同参画を進めていくためには、学校教育の場でどのようなことに力を入れたらよいと思いますか。(〇は3つまで)

学校教育の場で力を入れるべきだと思うことは、「一人ひとりの個性や人権を尊重することを学ぶこと」が約7割で最も多い回答となっています。



第3章 家庭生活について

家庭内での役割分担

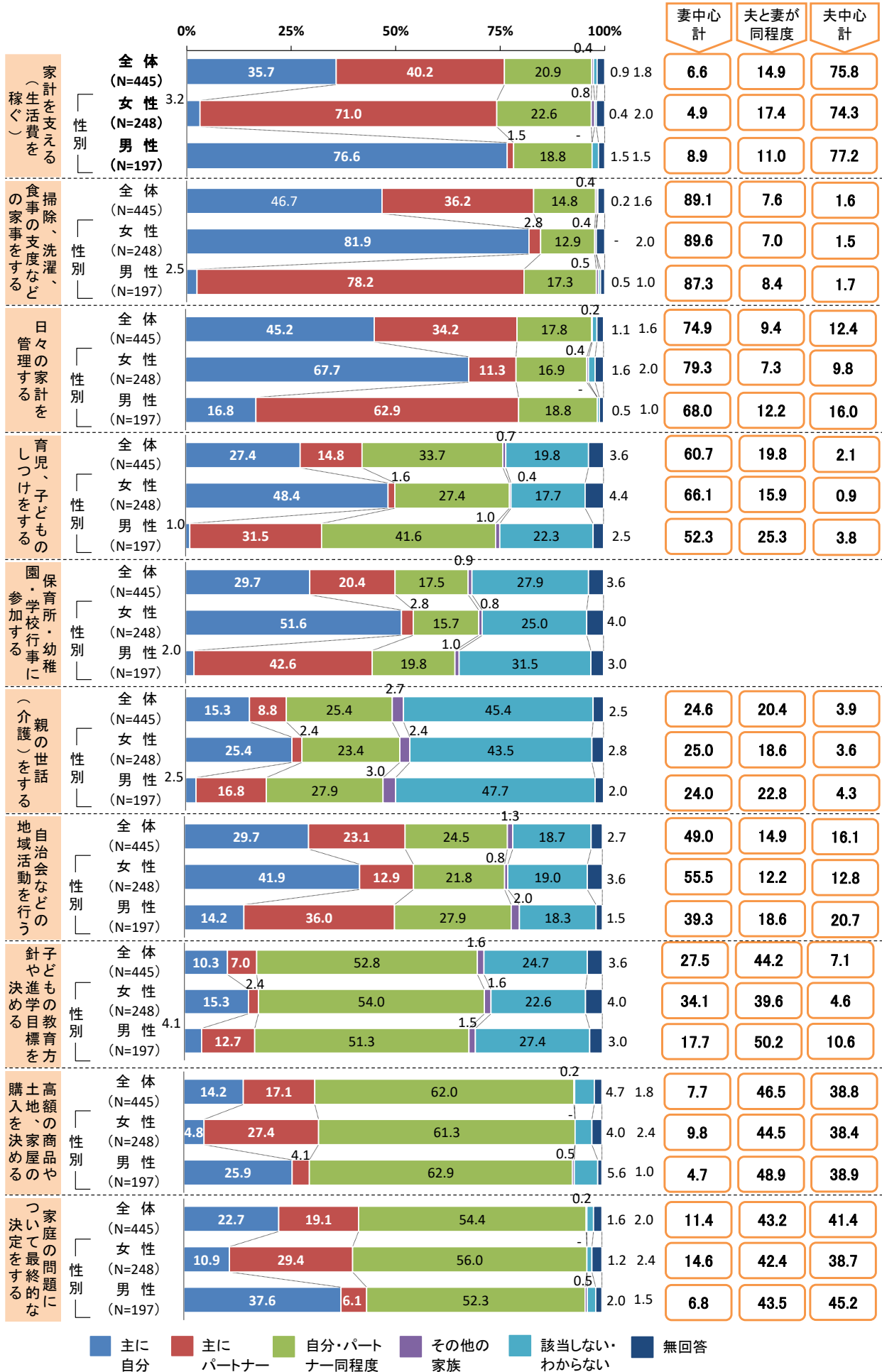
【現在パートナー(配偶者や恋人)と同居している方におたずねします。】

問 あなたの家庭では、次のことを、主にどなたが行っていますか。あてはまるものを選んでください。(〇はそれぞれ1つだけ)

家庭内での役割について、「家計を支える(生活費を稼ぐ)」は約7割の家庭で男性、「掃除、洗濯、食事の支度などの家事をする」は約8割の家庭で女性が担っており、多くの家庭で固定的な性別役割分担意識に沿った状況がうかがえます。

前回調査から「育児、子どものしつけをする」では、「自分・パートナーが同程度」の割合が増加しており、男性の参画を踏まえた子育て支援策が必要です。また家事や介護、重要な意思決定などでも「自分・パートナー同程度」の割合が増加しています。

前回調査(平成26年)



■ 主に自分 ■ 主にパートナー ■ 自分・パートナー同程度 ■ その他の家族 ■ 該当しない・わからない ■ 無回答

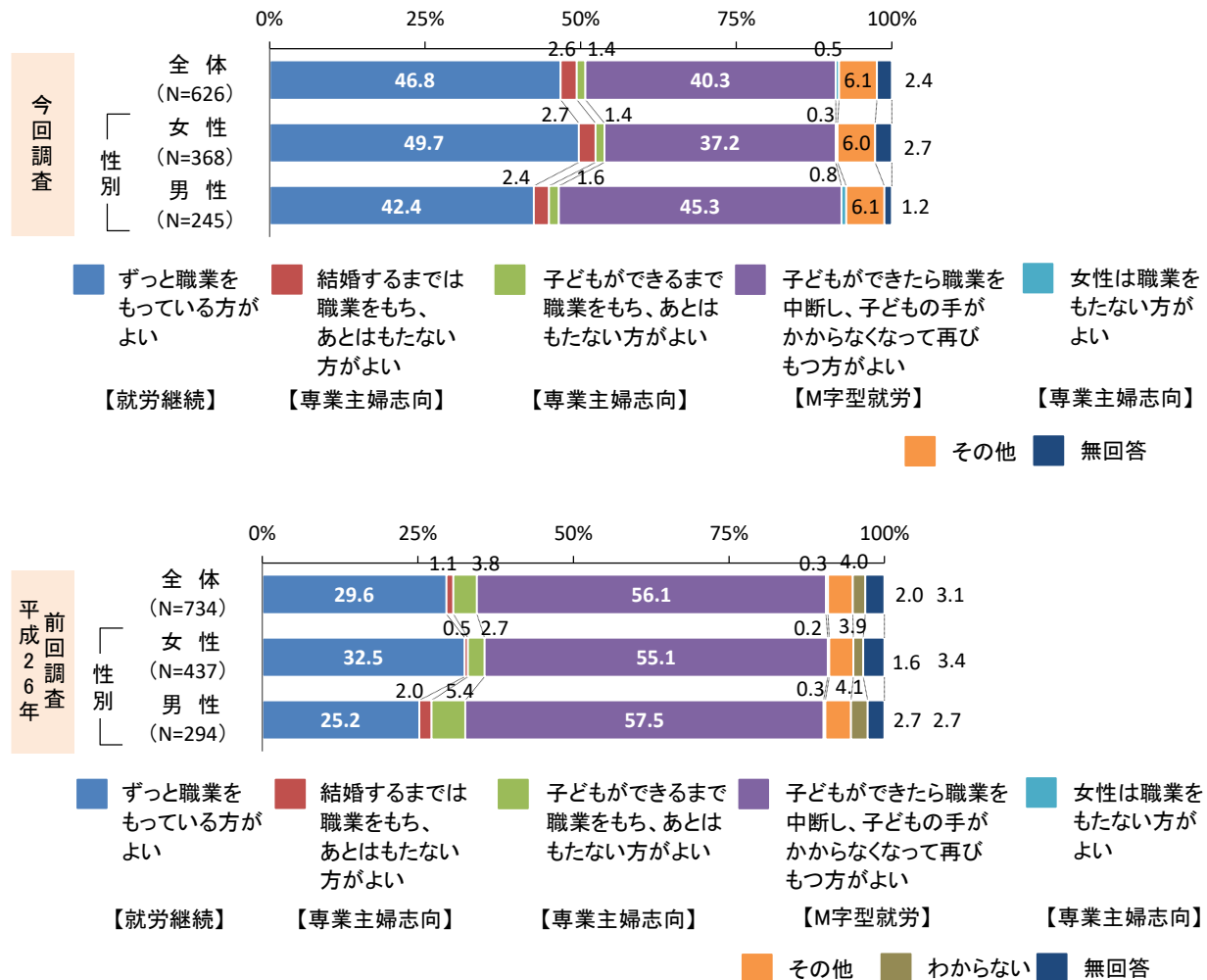
第4章 職業や仕事について

女性が職業をもつことについての考え方

問 一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどのように考えますか。(〇は1つだけ)

女性が職業をもつことについては、「ずっと職業をもっている方がよい」という就労継続を望ましいとする人と、「子どもができたら職業を中断し、子どもの手がかからなくなって再びもつ方がよい」という、いわゆる「M字型就労」を望ましいとする人に二分されるという結果になっています。一方で、「結婚するまでは職業をもち、あとはもたない方がよい」など、専業主婦を望ましいと考える人はわずかです。

前回調査と比べると、就労継続を望ましいとする人が2割近く増加しており、平成28年にいわゆる女性活躍推進法が施行され、市民の意識に変化をもたらしたと考えられます。

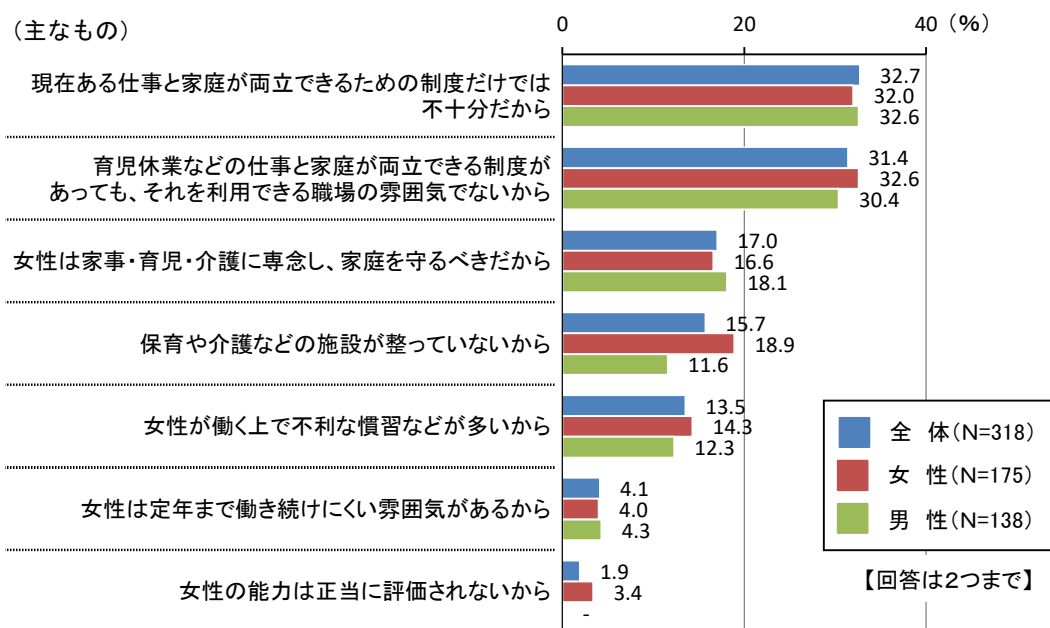


女性が職業を継続しない方がよいと思う理由

【職業を継続しない方がよいと答えた方におたずねします。】

問 あなたが、そう思うのはどのような理由からですか。(〇は2つまで)

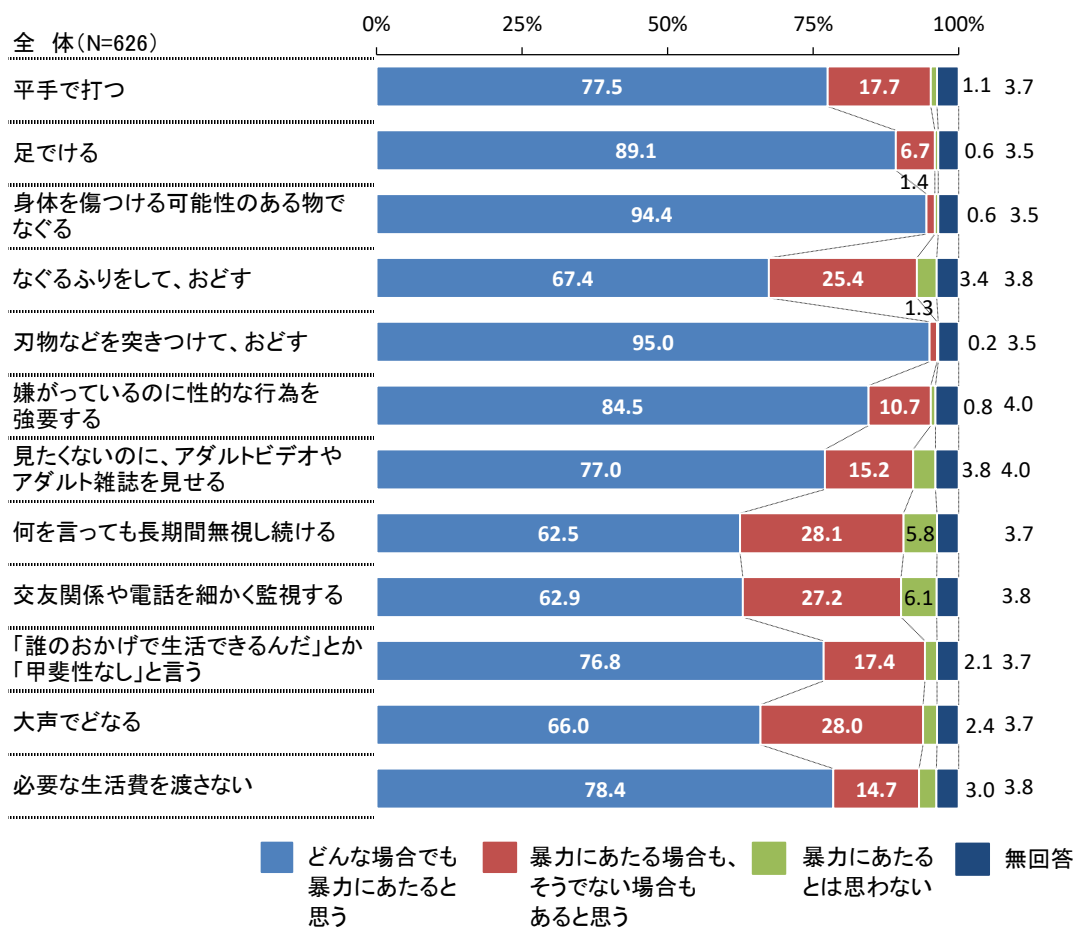
女性が職業を継続しない方がよいと考える理由は、「現在ある仕事と家庭が両立できるための制度だけでは不十分だから」という回答が多く、現実的な困難によって就労継続を諦めるしかない、という人もいることを示しています。制度の不備によりどのような困難が生じているのか精査し、対策を進める必要があります。



暴力だと思ふもの

問 あなたは、次にあげるようなことがパートナー（配偶者や恋人）間で行われた場合、それを暴力だと思ひますか。（○はそれぞれ1つだけ）

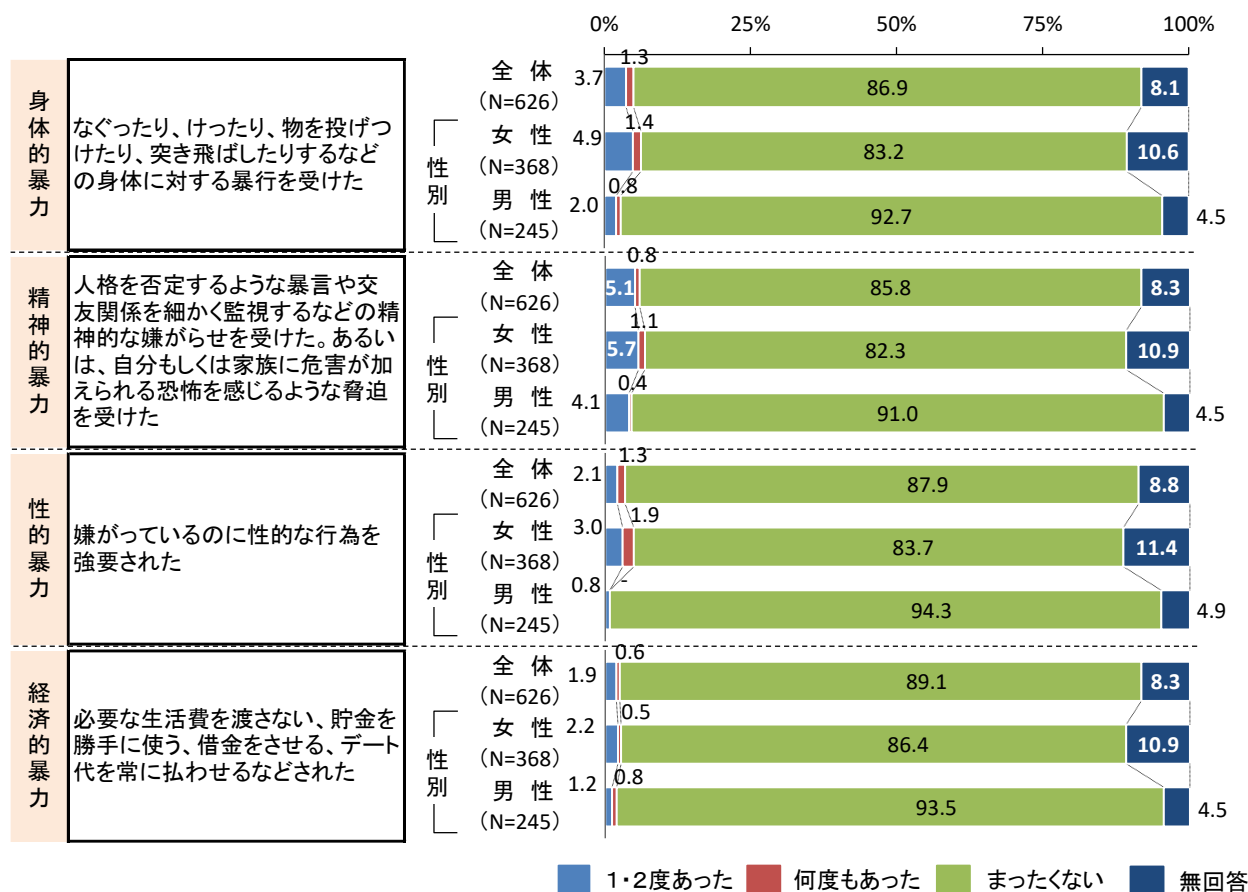
様々な暴力行為が配偶者や恋人の間で行われた場合に、「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が、身体的暴力に該当する項目では比較的高くなっています。しかし、束縛やネグレクトなど精神的暴力や経済的暴力に該当する項目では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が7割前後と低くなっています。DV・デートDVに関して、十分な認識が浸透しているとは言えない結果となっています。



暴力の被害経験

問 この3年間くらいのうちに、あなたはパートナー（配偶者や恋人）から次のようなことをされたことがありますか。（〇はそれぞれ1つだけ）

実際の被害経験については、この3年間に女性の13.3%、男性の6.9%が何らかの暴力を受けており、年齢別でみると、この問題が幅広い年代で生じていることを示す結果となっています。

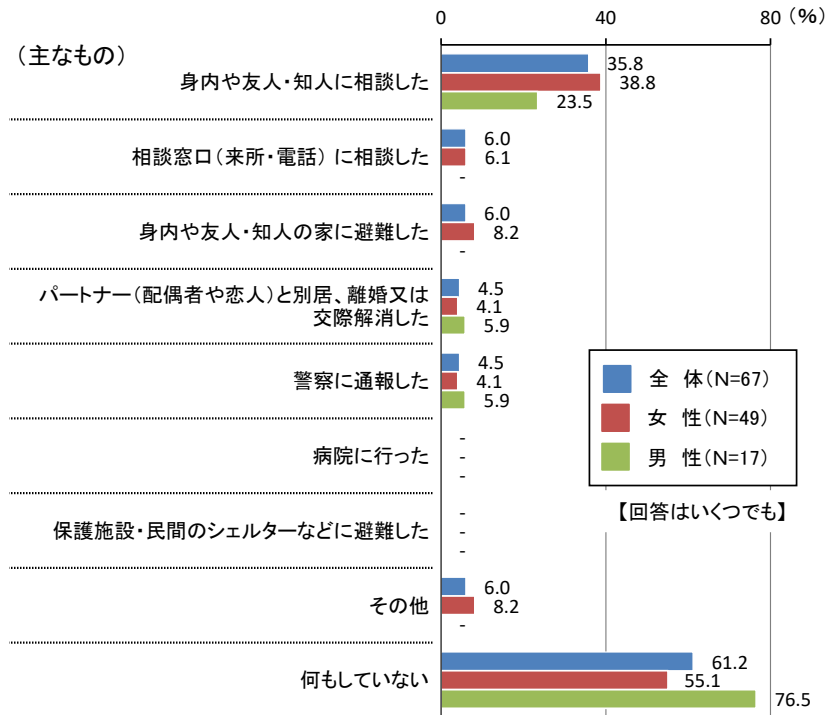


	標本数	身体的暴力				精神的暴力				性的暴力				経済的暴力				
		あ1つ・2度	あ何っ度も	なまいった	無回答	あ1つ・2度	あ何っ度も	なまいった	無回答	あ1つ・2度	あ何っ度も	なまいった	無回答	あ1つ・2度	あ何っ度も	なまいった	無回答	
全体	626	23	8	544	51	32	5	537	52	13	8	550	55	12	4	558	52	
	100.0	3.7	1.3	86.9	8.1	5.1	0.8	85.8	8.3	2.1	1.3	87.9	8.8	1.9	0.6	89.1	8.3	
年齢別	女性:20代以下	54	1.9	-	83.3	14.8	5.6	-	79.6	14.8	1.9	-	83.3	14.8	-	-	85.2	14.8
	女性:30代	60	6.7	-	88.3	5.0	5.0	-	90.0	5.0	1.7	-	93.3	5.0	3.3	-	91.7	5.0
	女性:40代	53	-	1.9	92.5	5.7	1.9	-	90.6	7.5	-	1.9	90.6	7.5	1.9	-	90.6	7.5
	女性:50代	81	8.6	2.5	85.2	3.7	9.9	2.5	84.0	3.7	6.2	3.7	84.0	6.2	3.7	1.2	91.4	3.7
	女性:60代	77	5.2	1.3	77.9	15.6	5.2	1.3	77.9	15.6	3.9	2.6	77.9	15.6	-	1.3	83.1	15.6
	女性:70代以上	43	4.7	2.3	69.8	23.3	4.7	2.3	69.8	23.3	2.3	2.3	72.1	23.3	4.7	-	72.1	23.3
	男性:20代以下	20	-	-	95.0	5.0	-	-	95.0	5.0	-	-	95.0	5.0	5.0	-	90.0	5.0
	男性:30代	43	-	-	95.3	4.7	4.7	-	90.7	4.7	-	-	95.3	4.7	-	-	95.3	4.7
	男性:40代	35	8.6	5.7	82.9	2.9	2.9	2.9	91.4	2.9	2.9	-	94.3	2.9	2.9	2.9	91.4	2.9
	男性:50代	42	-	-	95.2	4.8	2.4	-	92.9	4.8	-	-	92.9	7.1	-	-	95.2	4.8
	男性:60代	63	1.6	-	96.8	1.6	6.3	-	92.1	1.6	1.6	-	96.8	1.6	1.6	-	96.8	1.6
	男性:70代以上	42	2.4	-	88.1	9.5	4.8	-	85.7	9.5	-	-	90.5	9.5	-	2.4	88.1	9.5
	無回答	13	-	7.7	84.6	7.7	7.7	-	84.6	7.7	-	7.7	84.6	7.7	7.7	-	84.6	7.7

暴力を受けた時の対応

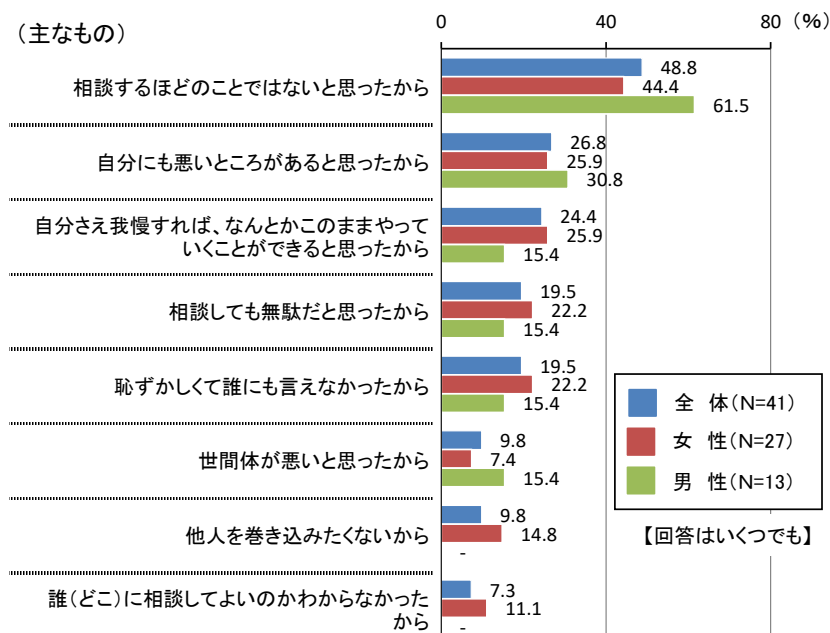
問 そのような行為を受けて、その後どのように対応しましたか。(〇はいくつでも)

暴力被害を受けた人のうち、約6割はどこにも相談をしていませんでした。



問 あなたが、何もしなかったのはなぜですか。(〇はいくつでも)

相談していない理由は、「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていくことができると思ったから」「相談しても無駄だと思ったから」「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」「誰(どこ)に相談してよいのかわからなかったから」などがあげられています。相談窓口の存在や、相談することの意義について一層の周知が必要とされています。

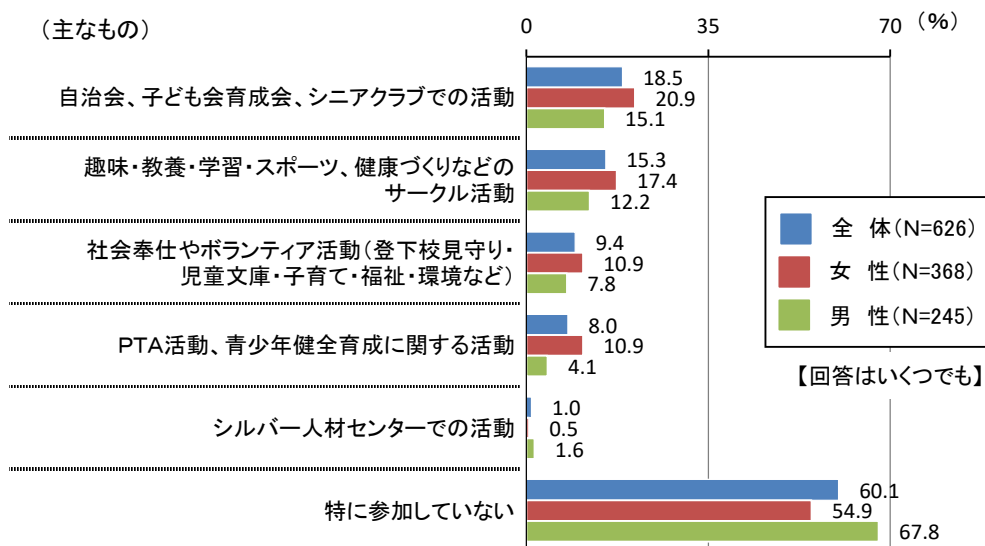


第6章 地域活動について

現在参加している地域活動

問 あなたは地域社会において、今どのような実践活動に参加していますか。
(〇はいくつでも)

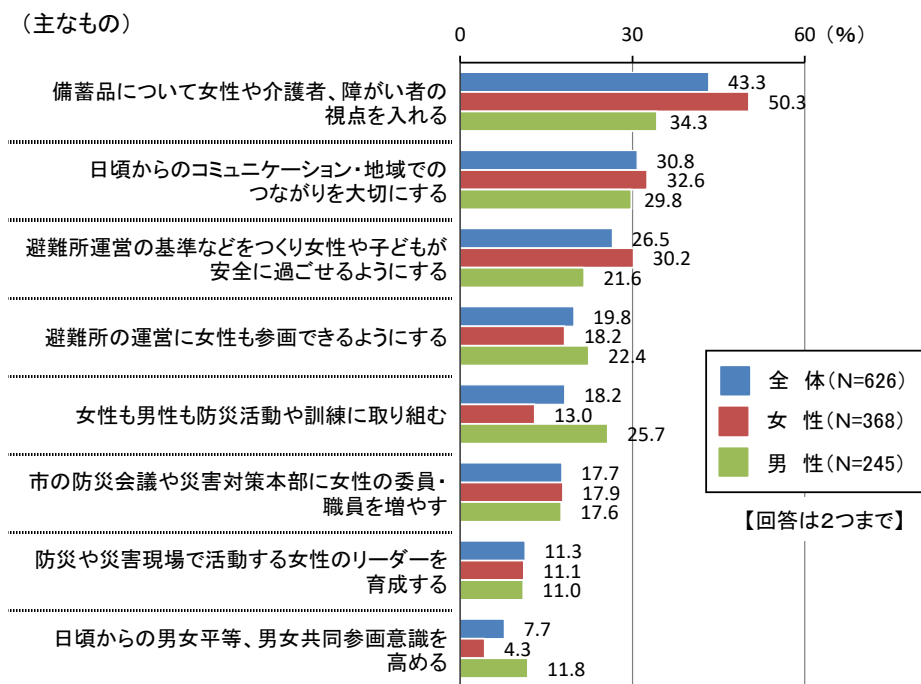
現在参加している地域活動については、「自治会、子ども会育成会、シニアクラブでの活動」や「趣味・教養・学習・スポーツ、健康づくりなどのサークル活動」が比較的多くなっていますが、約6割の人は「特に参加していない」となっています。地域活動が男女いずれにとっても有意義なものとなるよう、市民のニーズを汲み取りながら積極的な働きかけが望まれます。



防災に必要な男女共同参画の視点

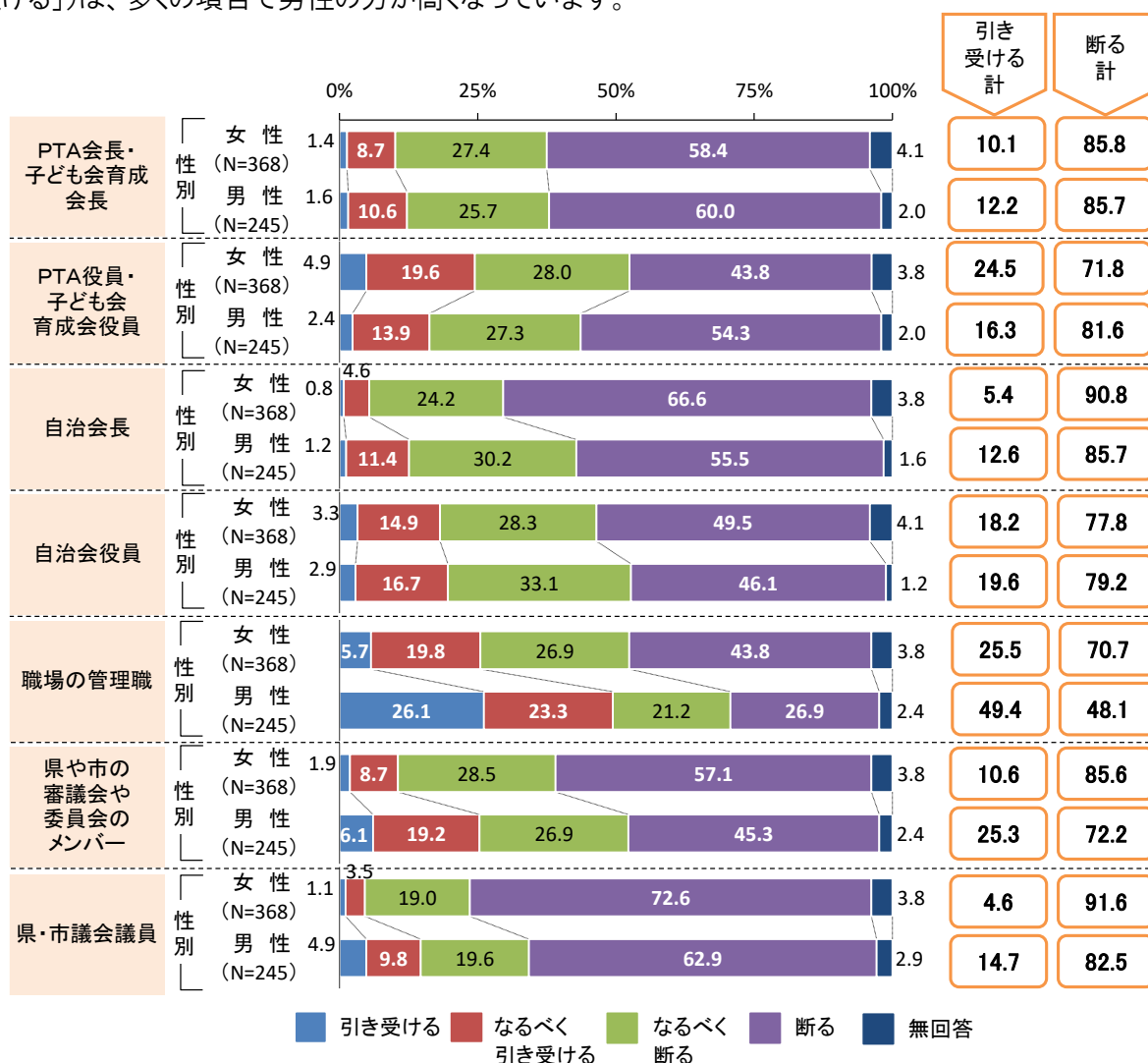
問 平成28年の熊本地震や、平成29年の九州北部豪雨など、九州でも多くの自然災害が発生していますが、日頃の防災や震災対応に男女共同参画の視点が活かされていないことが課題になっています。災害に備えるために、これからどのようなことが必要だと思いますか。(〇は2つまで)

近年、防災に男女共同参画の視点が必要であることが指摘されています。「備蓄品について女性や介護者、障がい者の視点を入れる」、「日頃からのコミュニケーション・地域でのつながりを大切にする」などがあげられています。防災や防犯といった観点からも、地域活動を通じて繋がりを形成することを促す取り組みが必要とされています。



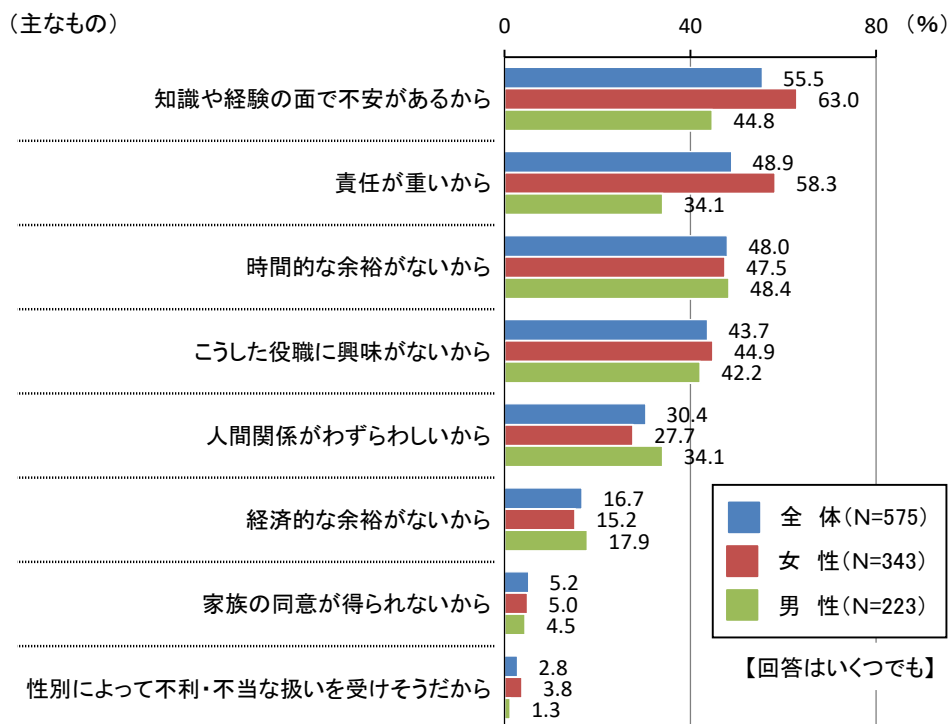
問 仮にあなたが、次のような役職、公職への就任や立候補を依頼されたらどうしますか。
(○はそれぞれ1つだけ)

役職や公職に就任や立候補を依頼された場合の対応として『引き受ける』(「引き受ける」+「なるべく引き受ける」)は、多くの項目で男性の方が高くなっています。



【ひとつでも「なるべく断る」、「断る」と答えた方におたずねします。】
 問 引き受けないのはどのような理由からですか。(〇はいくつでも)

女性が『断る』理由としてあげているのは、「知識や経験の面で不安があるから」や「責任が重いから」が多くなっています。女性が段階的に責任ある立場を経験できるような環境を整える必要があります。

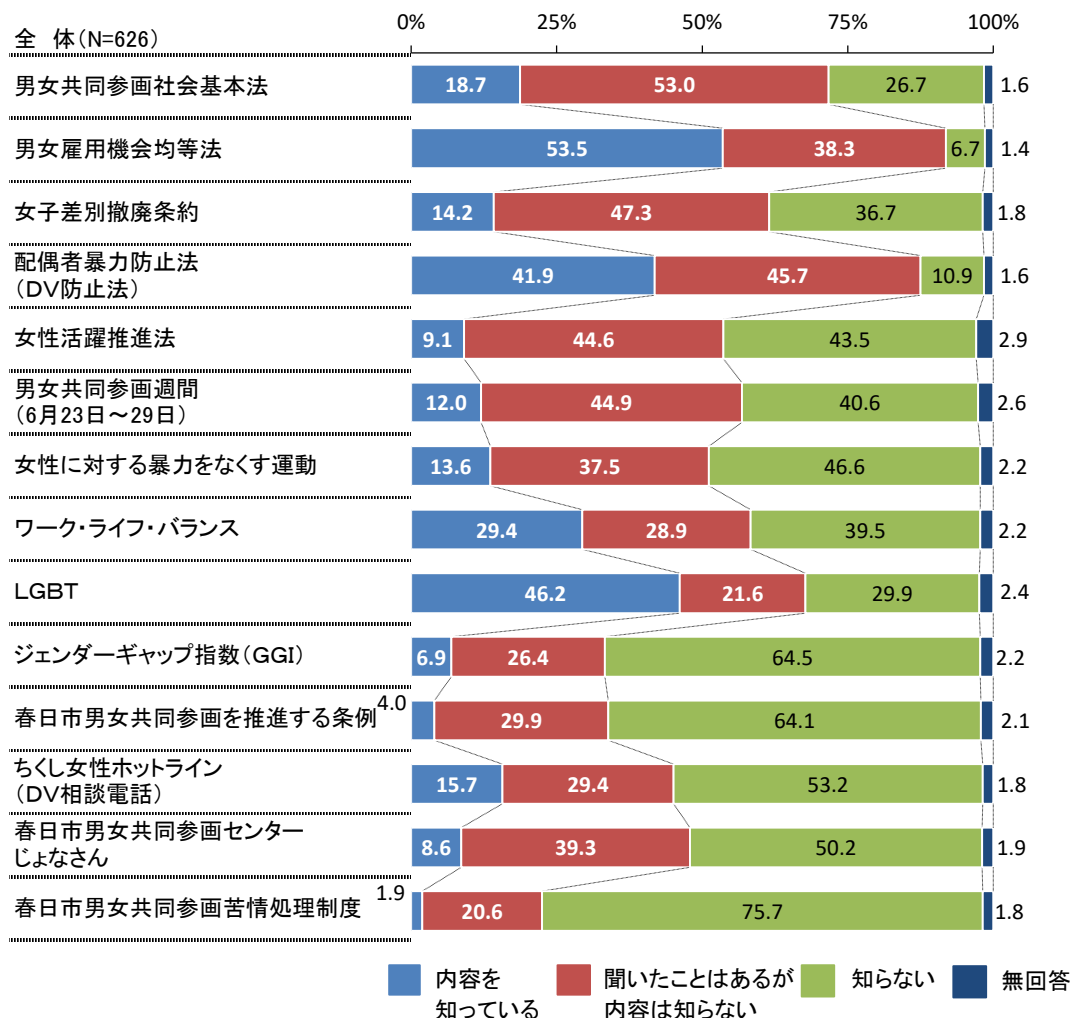


第7章 男女共同参画に関する施策について

男女共同参画に関連する法令や制度、用語の認知度

問 あなたは、次にあげる言葉について、どの程度知っていますか。(〇はそれぞれ1つだけ)

「LGBT」や「ジェンダーギャップ指数」「男女共同参画社会基本法」など教育の場で扱われることが多くなっている用語や比較的新しい法令などは若い世代の認知度が高くなっています。一方で、「春日市男女共同参画を推進する条例」や「春日市男女共同参画センターじよなさん」といった市の施策については、中高年層の方が認知度は高いという結果になっています。年代によって広報誌やインターネット・SNS など接するメディアが異なることから、年代にあった媒体を通じて認知度が低い言葉について周知することが必要です。



行政要望

問 春日市では、女性も男性も共にいきいきと活躍し、誰もが輝く活力ある社会を目指しています。この実現のために、今後、特にどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(〇は3つまで)

市民が市に力を入れて取り組むよう望んでいることとして「子育てや介護などでいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」や「保育や介護の施設・サービスを充実する」「仕事と家庭や地域活動の両立ができるよう企業に働きかける」をあげる人が多くなっています。これらの項目が上位にあげられていることは、仕事と家庭の両立に困難を感じている女性が多いことを表しています。これらの事柄は、男女共同参画および女性の活躍推進において中心的な課題でもあり、今なお残っている問題を精査し、困難に直面する人をなくす施策が求められています。

